社会的事象の相互の関連について考える力を育てる小学校社会科学習指導の工夫
― 資料活用モデルを取り入れた授業構成を通して ―

呉市立川尻小学校　的場　秀騎

研究の要約

本研究は，社会的事象の相互の関連について考える力を育てる学習指導の工夫を考察したものである。社会的事象の相互の関連について考える力を育てるには，資料から必要な情報を読み取り，読み取った情報や資料を活用して，事象と事象が相互にどのように関わり合っているかを考えさせることが必要であると考えた。そこで，資料を読み取り，活用して考える道筋を整理した資料活用モデルを開発し，飲料水の確保に関わる対策や事業の学習において，このモデルを取り入れた授業を行った。その結果，児童は飲料水の確保に関わる対策や事業と地域の人々の生活や生活環境の維持向上とが，相互にどのように関連しているかについて考えることができた。このことから，資料活用モデルを取り入れた授業構成は，社会的事象の相互の関連について考える力を育てることに有効であることが明らかとなった。

キーワード：社会的事象の相互の関連について考える力　資料活用

Ⅰ　主題設定の理由

小学校学習指導要領（平成20年）社会の第３学年及び第４学年の目標（３）には，「地域における社会的事象を観察，調査するとともに，地図や各種の具体的資料を効果的に活用し，地域社会の社会的事象の特色や相互の関連などについて考える力，調べたことや考えたことを表現する力を育てるようにする。」[1)]と示されている。

国立教育政策研究所は，「特定の課題に関する調査（社会）調査結果」（平成20年）を受けて，資料を読み取り関係付ける活動を通して，子どもの問題意識を醸成させたり，調べた事実を基に考え表現させたりする指導改善が必要だとしている[(1)]。

資料を読み取って考えることに関わって，所属校第４学年児童にアンケート調査を実施した（平成25年７月１日実施，所属校第４学年56人が回答）。その結果を図１に示す。「写真やお話，グラフなどの資料から，読み取ったことを基にして，学習課題について考えることができますか。」の問いについて，肯定的な回答をした児童は67.9%に留った。このことは，資料の精選や提示方法が適切でないために，児童に必要な情報を読み取らせることや，読み取ったことを基に考えさせる手立てが十分でなかったことによるものと考える。この所属校の実態は，「特定の課題に関する調査（社会）調査結果」を受けて国立教育政策研究所が示した指導改善に関わる課題と同一であると捉えることができる。

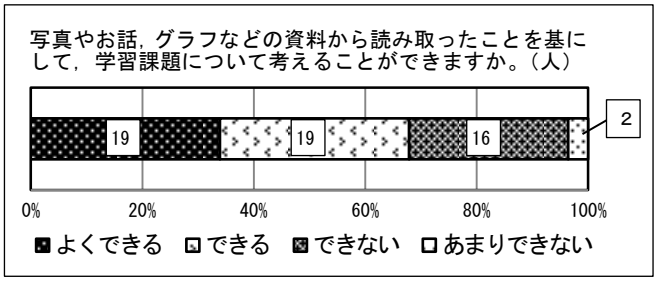

図１　社会科授業にかかわる事前アンケート

以上のことから，社会的事象の相互の関連について考える力を育てるには，資料から必要な情報を読み取り，それらを基に考える能力や技能を身に付けさせることが必要であると考える。

そこで，学習課題に関わる資料を精選し，児童が必要な情報を読み取り，それらを基に考えることができる手立てを明らかにした授業構成を行う。これにより，社会的事象の相互の関連について考えることができると考え，本主題を設定した。

Ⅱ　研究の基本的な考え方

１　社会的事象の相互の関連について考える力とは

社会的事象の相互の関連について考えることについて，安野功（2006）は，「事象と事象の間の，目

には見えにくいつながりに着目し，それがいったい何かを発見する。そこから相互にどう関わり合っているのかを考えるというものである。」[2]と述べている。また，寺崎千秋（2001）は，「相互の関連において，直接的な関連ばかりでなく，間接的な関連に目を向けることは，相互の関連をより広い視野から考え，互いの関わりがいろいろなものや情報を通じてつながっていることを考えることである。」[3]と述べている。

以上のことから，本研究における社会的事象の相互の関連について考える力とは，事象と事象が直接的・間接的にどうつながっているかを明らかにした上で，相互にどのように関わり合っているかを考える力と捉える。

社会的事象の相互の関連について考える力を育てることについて，小学校学習指導要領解説社会編（平成20年）では，「地域の人々の生活と自然環境，伝統や文化などとの関連，願いを実現していく地域の人々の工夫や努力，協力と生活や生活環境の維持と向上との関連，地域の人々の生活や産業と国内の他地域や外国との結び付きなどについて考えるようにすることである。」[4]と述べ，学習内容に応じた学習対象を明らかにしている。そこで，本研究では，第４学年において「地域の人々の健康な生活や良好な生活環境を守るための諸活動」のうち，飲料水の内容を取り上げることから，飲料水の確保に関わる対策や事業と地域の人々の生活や生活環境の維持と向上との関連について考えるようにする。

２　社会的事象の相互の関連について考える力を育てるには

(1) 先行研究から

広島県立教育センター教員長期研修の先行研究では，社会的事象の相互の関連について考えさせるには，社会的事象の事実やその意味など，根拠を明らかにして考えさせることや，関係図に整理して事象間の関係を可視化することによって，考えさせることが有効であるとしている。一方で，事象間の関連を考えさせるには，必要な情報を資料等から読み取る力を身に付けさせておくことが必要であるとしている[(2)]。このように，先行研究では，社会的事象の相互の関連について考える力を育てる有効な手立てを明らかにしている。しかし，児童が資料から必要な情報を読み取り，それらを活用して考える道筋については十分に明らかにされていない。

そこで，本研究では，資料から必要な情報を読み取り，読み取った情報や資料を活用して考える道筋を整理し，社会的事象の相互の関連について考える力を育てる学習指導の工夫を考察する。

(2) 資料を読み取り，活用することについて

社会科の授業における資料を活用することについて，竹内裕一（2012）は，「子どもたちは，社会的事象を様々な資料を用いて実証的に分析することにより，科学的な社会認識を身に付けることができる。」[5]と述べ，資料は社会的事象の事実や意味等を明らかにするために用いられるとしている。

また，岩田一彦（2001）は，「社会科の授業では，写真，統計，体験などによって，原因を示して結果を推理させたり，結果を示して原因を推理させたりしている。これが社会科における思考活動の中核をなしている。」[6]と述べ，資料を活用して事象間の原因・結果の関係を思考することの重要性を述べている。

これらのことから，社会科の授業において資料を読み取り，活用するとは，資料を用いて社会的事象の事実や意味等を明らかにし，原因や結果等の事象間の関連について考えることであると考える。

(3) 問題解決的な学習における資料活用

中央教育審議会答申（平成20年）社会科，地理歴史科，公民科の改善の具体的事項には，社会科において問題解決的な学習を一層充実させることが示されている[(3)]。

問題解決的な学習過程について，岩田（2009）は，「情報収集→課題発見・課題把握（予想・仮説）→資料収集・調査活動等（検証）→日常生活への適用」と述べ，問題解決的な学習過程を社会科の基本的な学習過程としている[(4)]。また，山中升（1993）は，問題解決的な学習過程に沿って，資料の読み取り，活用を位置付け，資料活用能力と思考力を結合して育成していくことが肝要であるとしている[(5)]。

これらのことから，問題解決的な学習過程に資料の読み取り，活用を位置付けることは，児童が資料を活用して社会的事象の相互の関連について考えることに有効であると考える。

そこで，山中（1993）の論[(6)]を参考に問題解決的な学習過程に沿って，資料を位置付ける視点を整理し，表１に示す。

表１　問題解決的な学習過程と資料を位置付ける視点

過　程	場　面	資料を位置付ける視点
つかむ	問題意識を高める	資料を収集させたり読み取らせたりして，そこから疑問をもたせる。
	問題の明確化	資料分析の仕方を確かめ，問題の焦点を明らかにする。

予想する	予想と仮説へ洗練	資料の比較・考察を行い，関連を発見・吟味していく。
調べる	仮説の検証	問題解決に必要な資料を選択収集し，活用して検証する。
まとめる	結論の吟味・応用	読み取った必要な情報から考えをまとめ，日常生活に適用する。

以上，（1）（2）（3）から，社会的事象の相互の関連について考える力を育てるには，問題解決的な学習過程に沿って位置付けた資料を読み取り，活用して考えさせることが重要であると考える。

そこで，これらのことを資料活用モデルに整理し，資料活用モデルを取り入れた授業構成を明らかにしていく。

Ⅲ　資料活用モデルを取り入れた授業構成について

1　目的に応じて資料を読み取らせる手立て

社会科における資料について，山中（1993）は，「教育活動の媒介として，その目的を達成するための役割を与えられた補助教材であり，学習の素材であり，学習の根拠となる材料である。」[7]と述べている。また，高山博之（1993）は資料の役割について，資料によって学習者が学習問題を把握したり，仮説を立てたりするなど自ら分析・総合して思考活動を主体的に進めることができるとしている[(7)]。

これらのことから，資料の特性を生かして，必要な情報を読み取らせることができるように，手立てを工夫することが重要であると考える。山中の論及び高知県立教育センターの研究報告を参考に，資料の分類や目的，読み取らせる手立てについてまとめたものを，表２に示す。

表２　資料の分類や目的，読み取らせる手立て[(8)(9)]

種類	資料の具体	資料の目的	読み取らせる手立て
文書	図書・事典・文献，パンフレットなど	観察することができない社会的事象の具体的な様子を把握する。	・鍵となる言葉を見つけさせたり，線を引かせたりする。 ・５Ｗ１Ｈを見つけさせる。 ・文章の見出しや題に着目させる。
視聴覚	写真，図像，動画など		・画像や絵の読み取らせたい箇所を拡大・分割して焦点化する。 ・動画等において，読み取らせたい場面で一時停止する。
実物・模型	模型・標本，実物など		・近くで見させたり，手に取らせたりして調べる。
統計	グラフや図表など	事象の全体に対する割合や傾向を知る。	・統計資料において，表題・出典，縦軸・横軸，最大値・最小値や傾向を見つけさせる。

このように，目的に応じて様々な資料を選択し，資料を読み取らせる手立てを明らかにすることで，児童は思考活動に必要な情報を確実に読み取ることができると考える。

2　資料を活用して考えさせる手立て

資料を活用して考えさせることについて，安野（2006）は，「発見した事実とそれに対するその子の考えをセットで表現していく。そうした表現形式を工夫したり，表現の仕方を指導したりしていくことが大切です。」[8]と述べている。そこで，資料から読み取った必要な情報を書き込み，根拠を明らかにして，社会的事象の相互の関連について考えさせるワークシートを作成する。このワークシートの構成を図２に示す。

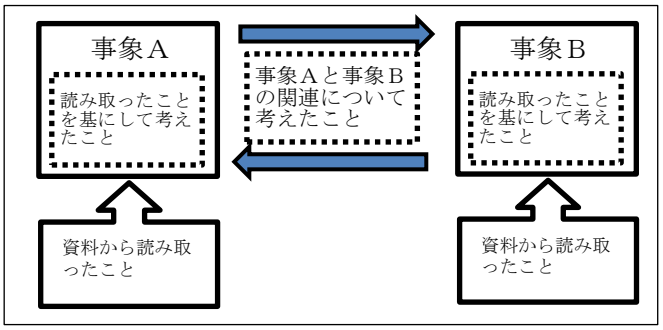

図２　社会的事象の相互の関連について考えるワークシートの構成

まず，ワークシートには事象Ａについて既習内容や資料から読み取ったことと考えたことを記述させる。次に，事象Ｂについても同様に記述させる。このようにして，事象Ａ，Ｂについて考えたこととその根拠を明らかにする。その後，事象Ａ，Ｂについて考えたことから，相互にどのように関連しているかを考えさせ，それぞれの矢印の意味を記述させる。

このように，ワークシートへ書き込み，整理させることにより，事象と事象のつながりを視覚的にまとめ，事象間の相互の関連について考えさせることができると考える。

3　資料活用モデルについて

１と２で述べたことを総合して作成した資料活用モデルを図３に示す。このモデルについて，「飲料水の確保に関わる対策や事業」と「地域の人々の生活」との関連について考えさせる授業を例に説明する。

まず，浄水場の仕組みや働く人の話の資料を提示し，24時間交代で働く，50種類の水質検査を行っている等の必要な情報を読み取り，これらの情報をワークシートに記述させる。これらを比較，関連，総合して考えさせることで，水道局で働く人々の工夫や努力によって，飲料水の確保に関わる対策や事業が行われていることを捉えさせる。

次に，広島県の森林保全の活動や呉市上下水道局の取組についての映像や読み物資料等を提示し，森林の緑のダムとしての役割，森林保全の必要性等の必要な情報を読み取り，ワークシートに記述させる。これらを比較，関連，総合して考えさせることで，地域の人々は水源や水質を守るために，森林を守る活動や節水に心がけていることを捉えさせる。

その後，整理したワークシートを基に，「飲料水の確保に関わる対策や事業」と「地域の人々の生活」が相互にどのように関連しているかを考えさせる場面を設定する。児童は，「飲料水の確保に関わる対策や事業は，いつでも，安心，安全な水を供給するなどして，地域の人々の生活の維持と向上に役立っていること」と，「地域の人々は，森林を守ることや節水すること等，飲料水の確保に関わる対策や事業に協力していること」を考えることができる。

このように資料から必要な情報を読み取り，それらを活用して考える道筋を明らかにすることで，社会的事象の相互の関連について考えることができるのである。

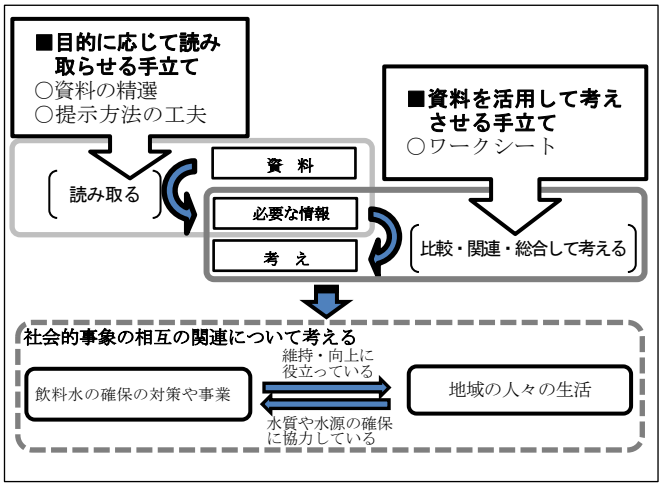

図３　資料活用モデル

この資料活用モデルは，問題解決的な学習過程に組み込むことにより，社会的事象の相互の関連について考える力を育てる授業構成となる。資料活用モデルを取り入れた単元の構成を表４に示す。

Ⅳ　研究の仮説及び検証の視点と方法

１　研究の仮説

「飲料水の確保に関わる対策や事業」の学習において，「目的に応じて資料を読み取らせる手立て」と「資料を活用して考えさせる手立て」を工夫した資料活用モデルを取り入れた授業構成を行えば，社会的事象の相互の関連について考える力を育てることができるだろう。

２　検証の視点と方法

検証の視点	方　法
社会的事象の相互の関連について考える力を育てることができたか。 ①　社会的事象について，必要な情報を読み取るために適切な資料を選択できたか。 ②　社会的事象について，資料から必要な情報を読み取ることができたか。 ③　資料から読み取った必要な情報を基に，社会的事象の相互の関連について考えることができたか。	プレテスト ポストテスト
資料活用モデルを取り入れた授業構成は，社会的事象の相互の関連について考える力を育てることに有効であったか。	アンケート

(1) プレテスト・ポストテストについて

研究授業では，「地域の人々の健康な生活や良好な生活環境を守るための諸活動」のうち，飲料水の確保に関わる対策や事業について学習することで，社会的事象の相互の関連について考える力を育てることを目標としている。この力が児童に育っていれば，電気を学習対象にしても同様に考えることができると考えた。そこで，プレテスト・ポストテストは，電気の確保に関わる対策や事業について取り上げ，問題を作成した。これを図４に示す。

プレテスト・ポストテストの評価は，表３に示す判断基準によって判定し，検証する。評点「２」以上をおおむねできたと判定する。なお，検証の視点②では，児童の実態を詳細に把握するため，評点「３」を細分化する。

表３　プレテスト・ポストテストの判断基準

問題	評点		判断基準
1	3		設問について，正答を導き出す資料１と資料３のどちらも，記入している。
	2		設問について，正答を導き出す資料１，または資料３のどちらかを記入している。
	1		無回答，または資料２を含めた記入をしている。
2	3	a	資料２から，読み取ることができる次の３点のうち，３点すべてを回答している。 ア：電力会社で働く人が 24 時間休みなく電気をつくっているから。 イ：電線や電柱の点検や付けかえをしているから。 ウ：停電した時などでもすぐに対応してくれるから。
		b	上記のア，イ，ウのうち，２点を答えている。
	2		上記のア，イ，ウのうち，１点を答えている。
	1		上記のア，イ，ウのうち，どれも答えていない。または記入していない。
3	3		節電や電力事業の協力につながる考えを，次の５点のうち，二つ以上の内容を記入している。 ア：いろいろな発電方法を知り，安心で安全な電気について考えたい。 イ：電線が切れて落ちていたり，電柱を登ろうとしている人がいたりしたら，大人を通して，電力会社へ連絡をする。 ウ：みんなの電気が不足しないように，節電したい。 エ：電気料金をちゃんと払う。 オ：電気工事をじゃましたり，迷惑をかけたりしないように気を付ける。
	2		上記のアからオのうち，一つの内容を記入している。
	1		無回答，または電力事業と無関係の内容を記入している。

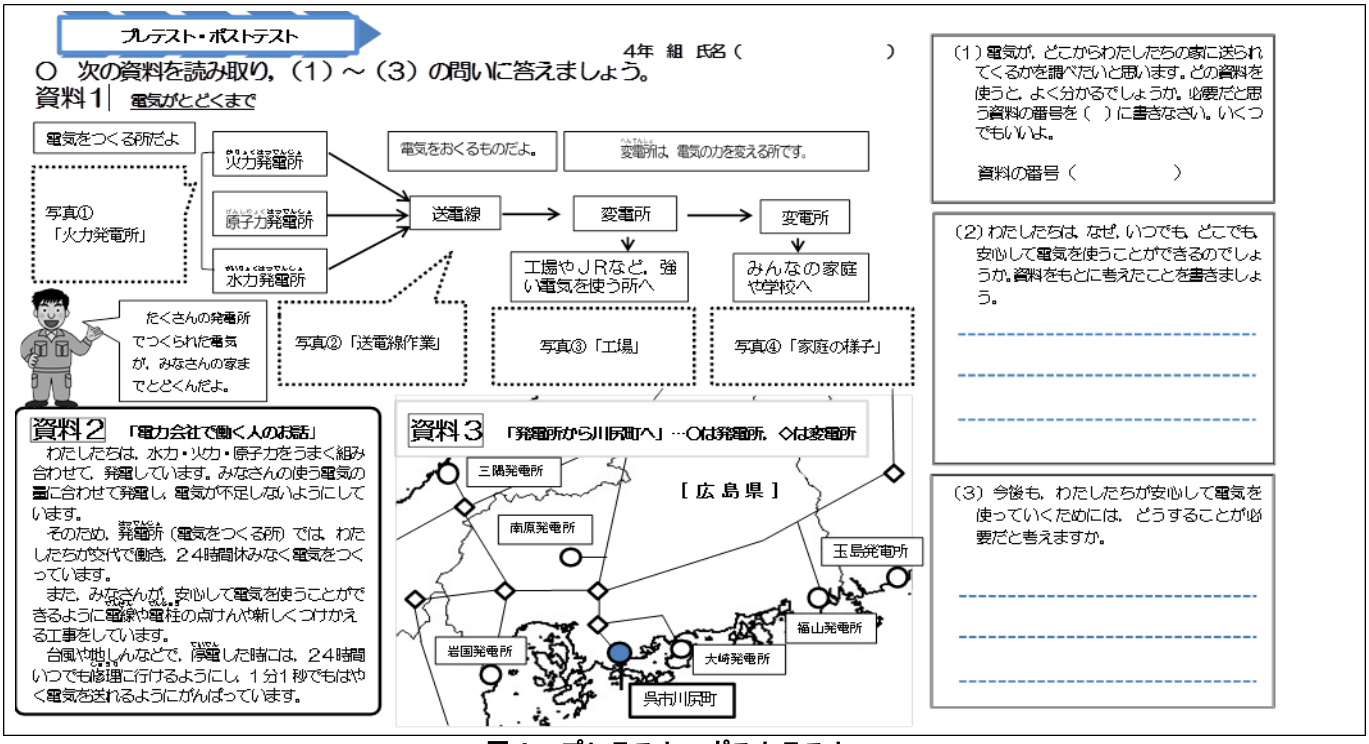

図４　プレテスト・ポストテスト

表４　資料活用モデルを取り入れた単元の構成

過程	時	学習内容	学習活動	目的に応じて資料を読み取らせる手立て	資料を活用して考えさせる手立て	児童の思考
つかむ	1	水道水の使用量や目的を知り，学習課題を設定し，学習の見通しをもつ。	飲料水の確保に関わる対策や事業に関心をもち，学習課題を発見する。	・校内探検による資料収集 ・グラフの読み取り方の提示	収集した資料や他の資料から読み取った情報を書き込むワークシートの工夫	飲料水は，家庭生活や学校生活など様々な場面で使われ，市全体では大量に使われている。
予想	2	自分たちが使う水道水は各種の施設を経由して送られてくる。	課題の予想をした上で，水道水の経路図を調べる。	・水の経路図を拡大提示（単元を通して資料）	読み取ったことと自分の予想を比較して考えを書き込むワークシートの工夫	水はどこから，どのようにして送られてくるのだろうか
調べる	3	呉市上下水道局は，いつでもどこでも，必要な飲料水が届くように，浄水システムの維持管理や勤務体制を工夫している。	浄水場の仕組みを調べる。	・読み取らせたい内容を焦点化させて提示 ・プレゼンテーションソフトとワークシートを連動させた資料提示	多様な資料から必要な情報を読み取るワークシートの工夫	呉市上下水道局は，「いつでも・安心・安全」に水道水を供給するために，工夫や努力をしている。
	4	水道局で働く人は常に，安全な水道水の安定供給のため，施設・設備の点検等に努めている。	浄水場で働く人の努力や工夫を調べる。	・プレゼンテーションソフトとワークシートを連動させた資料提示 ・映像資料の読み取り方の提示	多様な資料から必要な情報を読み取るワークシートの工夫	
	5	宮原浄水場は，「いつでも・安心・安全」な水道水をつくるために，いろいろな工夫や努力をしている。	これまでの学習をまとめ，水道水の目的を考える。	・実物資料による比較実験	前時までに読み取った情報を総合し，他の事象と比較して考えさせるワークシートの工夫	浄水場の水はどこから，どのようにとどくのだろうか
	6	宮原浄水場は，他市町と協力して水を確保し，水源の維持を図っている。	他市町との協力的・計画的な水道事業を調べる。	・水の経路図を拡大提示 ・プレゼンテーションソフトとワークシートを連動させた資料提示	多様な資料から必要な情報を読み取るワークシートの工夫	地域の人々は，水質や水源を守る活動に取り組んでいる。
	7	水源や水質を守るために，地域の人々は，他市町や県と協力して，水環境の美化・保全に取り組んでいる。	水源確保のため他市町や県の取組について調べ，考える。	・文書資料（パンフレット）の読み取り方の提示 ・水の循環図を拡大提示	事象間の関係を可視化し，事象の意味に気付かせるワークシートの工夫	
まとめる	8	水道事業は地域の人々の生活の維持と向上に役立ち，地域の人々は水道事業に協力している。	学習してきたことを基に，相互の関連について考える。	・これまでに学習した資料を再構成して提示	事象間の関係を可視化し，相互の関連について考えさせるワークシートの工夫	飲料水確保の対策や事業 ⇄（役立つ／協力） 地域の人々の生活
	9	飲料水の確保に関わる対策や事業の課題について，根拠を挙げて自分なりの考えをもつ。	飲料水の確保に関わる対策や事業についてまとめ，表現する。	・文書資料（新聞）の読み取り方の提示	これまで学習してきたことを踏まえて，自分の考えを表現するワークシートの工夫	飲料水の確保に関わる対策や事業に協力していくことが必要である。

(2) アンケートについて

アンケートの内容は次のとおりである。アンケートは，４段階評定尺度法とし，事前事後に実施する。

写真やお話，グラフなどの資料から読み取ったことを基にして，学習課題について考えることができましたか。

Ⅴ　社会的事象の相互の関連について考える力を育てる社会科授業の実際

１　研究授業の内容

○　期　間　平成25年７月１日～平成25年７月９日
○　対　象　所属校第４学年（２学級計56人）
○　単元名　水はどこから
○　目　標

人々の生活に必要な飲料水の確保のために，呉市上下水道局では隣接する地域とも協力し合い，計画的に安全な水を供給していることや地域の人々がこれらの対策や事業に協力していることを捉えさせるとともに，自分たちも節水などを通して資源の有効な利用に協力することが必要であることを考えさせる。

２　研究授業の指導計画

表４に表す。

Ⅵ　研究授業の考察

１　社会的事象の相互の関連について考えることができたか

(1) 社会的事象について，必要な情報を読み取るために適切な資料を選択できたか

電気が家庭へ送られてくる様子を読み取ることができる資料を選ぶことで，適切な資料を選択できたかを検証する。プレテスト・ポストテストの結果を表５に示す。

表５　問１のプレテストとポストテストのクロス集計結果

ポスト／プレ	3	2	1	計（人）
3	12	0	0	12
2	15	21	0	36
1	3	5	0	8
計（人）	30	26	0	56

評点「２」以上の児童は，プレテストでは48人だったが，ポストテストでは56人に増加した。評点「１」の児童は，プレテストでは８人いたが，ポストテストでは全員が評点「２」以上になった。

このことから，児童は「水はどこから」の学習を通して，必要な情報を読み取るための適切な資料を選択することができるようになったことが分かる。

(2) 社会的事象について，資料から必要な情報を読み取ることができたか

「いつでも，どこでも，安全に電気を使うことができる」理由を読み取ることで，資料から必要な情報を読み取ることができたかを検証する。プレテスト・ポストテストの結果を表６に示す。

表６　問２のプレテストとポストテストのクロス集計結果

ポスト／プレ	3ａ	3ｂ	2	1	計（人）
３ａ	0	0	0	0	0
３ｂ	0	4	0	0	4
2	7	12	13	0	32
1	3	6	9	2	20
計（人）	10	22	22	2	56

評点「２」以上の児童は，プレテストでは36人だったが，ポストテストでは54人に増加した。特に評点「３ａ」の児童は10人となり，資料から必要な情報を効果的に読み取ることができるようになったことが分かる。また，評点「１」の児童は，プレテストでは20人だったが，ポストテストでは２人に減少し，無記入の児童はいなくなった。

問２について，児童が具体的にどのように変容したかを，評点「１」から評点「３a」に変容した代表的な児童ａの記述により分析する。

表７　問２における児童ａの記述内容

プレテスト		ポストテスト	
評点	記述内容	評定	記述内容
1	・電気をつくる所で，いろいろな発電所に電気をおくって送電線で変電所に電気がいって家や家庭に行く。	３ａ	・電線や電柱の点けんや修理をしている。 ・台風や地しんでてい電した時も，はやくしゅうりに行く。 ・24時間休みなく発電をしている。

プレテストで，児童ａは，いつでも安心して電気を使うことができる理由として，電気が届く様子を書いていた。しかし，ポストテストでは，安全に電気が届けられる理由を書くことができた。

このことは，「水はどこから」の学習で，児童ａが，水の経路や浄水の仕組み等を図に示したり，文書資料から根拠となる語句を見付けたりして，必要な情報を読み取り，ワークシートに書き込むことを積み重ねてきたからだと考える。

ポストテストにおいて評点「１」だった児童２人は，問題を把握できていなかった。今後，個に応じて指導をしていくことが必要である。

問１と問２の結果から，児童は，社会的事象について必要な情報を読み取るために，各種の資料から適切な資料を選択し，必要な情報を読み取ることができるようになったことが分かる。

(3) 資料から読み取った必要な情報を基に，社会的事象の相互の関連について考えることができたか

問２で読み取った電力会社の工夫や努力を踏まえて，「わたしたちが安心して電気を使っていくために，どうすることが必要であるか」を考えることで，社会的事象の相互の関連について考えることができたかを検証する。

プレテスト・ポストテストの結果を表８に示す。

表８　問３のプレテストとポストテストのクロス集計結果

プレ＼ポスト	3	2	1	計（人）
3	1	0	0	1
2	20	20	0	40
1	2	12	1	15
計（人）	23	32	1	56

評点「３」の児童は，プレテストでは１人だったが，ポストテストでは23人に増加した。また，評点「１」だった児童は，プレテストでは15人だったが，ポストテストでは１人に減少した。

問３について，児童が具体的にどのように変容したか，評点「１」から評点「３」に変容した代表的な児童ｂを取り上げて述べる。

児童ｂは，プレテストでは，「これからも，点けんや工事をつづけてもらう。」と記述し，電力会社に頼る考え方であった。しかし，ポストテストでは，電力不足を考えた「むだな電気を使わない。」や，環境にやさしい発電を考えた「発電方法について勉強したい。」という記述をしていた。

このように，児童ｂが電気の確保に自分から協力していこうという考えに変容した背景には，「水はどこから」の学習において，「飲料水の確保に関わる対策や事業」や「地域の人々の生活」の相互の関連について考えたことによるものと考える。第８時の学習で，児童ｂが記述したワークシートを図５に示す。

児童ｂは，呉市上下水道局で働く人の工夫や努力が，地域の人々の生活にどのように関連しているか

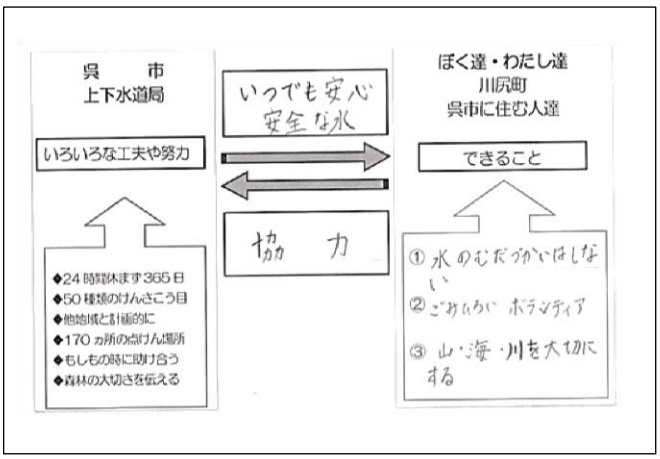

図５　児童ｂのワークシート

を示すキーワードを「いつでも・安心・安全な水」と記述していた。もう一方の，地域の人々と水道局の対策や事業がどのように関連しているかについては，自分や地域の人々ができることを考え，「協力」というキーワードを記述していた。このように，児童ｂは，「水はどこから」の学習を通して，事象間のつながりを明らかにし，相互の関連について考えることができるようになったと考える。

ポストテストで評点「１」だった児童は，「水のむだづかいはしない。」と，飲料水の確保に関わる記述をしていた。今後，記述する目的や対象を明らかにする等，個に応じた指導をしていく必要があると考える。

問３の結果から，児童は資料から読み取った必要な情報を基に，社会的事象の相互の関連について考えることができるようになったことが分かる。

以上，（１）（２）（３）の結果から，資料活用モデルを取り入れた授業構成により，児童は資料から必要な情報を読み取り，活用することで，社会的事象の相互の関連について考える力を育てることができたといえる。

２　資料活用モデルを取り入れた授業構成は，社会的事象の相互の関連について考える力を育てることに有効であったか

先に述べた研究の仮説及び検証の視点と方法を基に，授業後にアンケートを行った。その結果を図６に示す。

「写真やお話，グラフなどの資料から読み取ったことを基にして，学習課題について考えることができましたか。」について，肯定的な回答は89.3%だった。その理由として，「資料から読み取ると分かりやすかったから」や「プリントなどの資料で『ここはここに当てはまる』などを学習課題につなげて

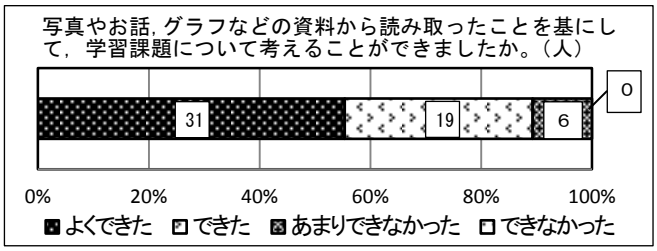

図６　社会科授業にかかわる事後アンケート

いったから」「頭で考えるより，ワークシートで考える方が分かりやすい」等と記述していた。このことから，資料活用モデルは，資料を読み取って課題を考えていくことや，事象の相互の関連について考えることに役立ったことが分かる。また，読み取っていく順番を番号で表したり，読み取ったことと考えたことを矢印や線でつないだりしてワークシートに書き込ませたことも，児童が思考する上で有効であったと考える。

一方で，「できなかった」と答えた児童はいなかったものの，「あまりできなかった」と答えた児童は，10.7%だった。その理由として「よく分からなかったから」や「あまり読み取れなかったから」と記述していた児童が多かった。これらの児童は，学習課題によっては，資料を読み取ることが十分にできなかったことから，「あまりできなかった」と回答したものと考える。今後も，資料から必要な情報を読み取らせる指導を継続していく必要がある。

以上のことから，資料活用モデルを取り入れた授業構成は，社会的事象の相互の関連について考える力を育てることに有効であったといえる。

Ⅶ　研究のまとめ

１　研究の成果

第４学年の飲料水の確保に関わる対策や事業の学習において，「目的に応じて資料を読み取らせる手立て」と「資料を活用して考えさせる手立て」を工夫した資料活用モデルを取り入れた授業構成によって，児童は資料から必要な情報を読み取り，読み取った情報を活用して，社会的事象の相互の関連について考えることができた。このことから，資料活用モデルを取り入れた授業構成は，社会的事象の相互の関連について考える力を育てることに有効であることが明らかになった。

２　今後の課題

ポストテストで評点「１」だった児童は，社会的事象について適切な資料を選択し，必要な情報を読み取ることが十分にできなかった。今後は，一人一人の児童の実態を確実につかみ，個に応じたヒントカードを作成したり，読み取り考える時間を確保したりするなど，指導の工夫が必要である。

また，資料活用モデルを取り入れた授業構成の実践を他の単元や他学年において継続的に取り組むことが必要であると考える。

【注】

(1) 国立教育政策研究所(平成20年)：『特定の課題に関する調査（社会）調査結果』を参照されたい。
(2) 広島県教員長期研修・発表資料　平成23・24年度版を参照されたい。
(3) 文部科学省（平成20年）:『小学校学習指導要領解説社会編』東洋館出版社 p. ４を参照されたい。
(4) 岩田一彦（2009）:『学習課題の提案と授業設計－習得・活用・探究型授業の展開－』明治図書 p. 14に詳しい。
(5) 山中升（1993）:『新訂社会科教育指導用語辞典』教育出版株式会社 p. 82を参照されたい。
(6) 山中升（1993）：前掲書 p. 83を参考されたい。
(7) 高山博之（1993）:『新訂社会科教育指導用語辞典』教育出版株式会社 pp. 308-309 を参照されたい。
(8) 山中升（1993）：前掲書 p. 83を参照されたい。
(9) 高知県立教育センター　平成19年度共同研究報告書『読解力向上に関する指導の研究』に詳しい。

【引用文献】

1)　文部科学省（平成20年）:『小学校学習指導要領』東京書籍 p. 34
2)　安野功（2006）:『社会科授業力向上５つの戦略』東洋館出版社 p. 40
3)　寺崎千秋(2001):『新社会科の授業こう教える３・４年』国土社 p. 41
4)　文部科学省（平成20年）:『小学校学習指導要領解説社会編』東洋館出版社 p. 20
5)　竹内裕一(2012)：『社会科教育辞典』ぎょうせい pp. 260-261
6)　岩田一彦（2001）:『社会科固有の理論30の提言』明治図書 pp. 46-47
7)　山中升（1993）:『新訂社会科教育指導用語辞典』教育出版株式会社 p. 82
8)　安野功（2006）：前掲書 p. 106

【参考文献】

森分孝治（2006）:『社会科授業構成の理論と方法』明治図書
岩田一彦（2009）:『学習課題の提案と授業設計－習得・活用・探究型授業の展開－』明治図書
米田豊(2011)：「『習得・活用・探究』の社会科授業＆評価問題プラン」明治図書